



リトラス

東日本工場を新設 生産能力を2倍に

【群馬】中古トラックの販売・買取を手掛けるリトラス（津田猛社長、東京都港区）は1日、佐波郡玉村町に東日本工場をオープンした。前

また、集中配管で

橋南ICから車で5分の好立地に新設された同工場は、敷地面積が7905平方メートル（2391坪）で、中古車の架装だけでなく、セルフホデー、ムービングフロア、同トレーラ、チップダンパなどオリジナルの新車架装も手掛ける。

工場は架装8レーン、塗装2レーンの構成で、塗装ブースにはリフトを設置。各ブースはロングダン

各レーンに2か所ずつのガス・エア・アセチレン・溶接機を設置。100V・200Vの電源も完備し、準備時間の短縮による生産効率の向上を実現している。

工場長の山崎努氏は「当社では、車両・部品の仕入れから納車までの流れを自社の基幹システムで一元管理しているが、新工場では、作業をし、予定に対して

してどのような進捗になっているかが見られる工程管理システムも導入した」と説明。部品在庫も運動しており、発注の指示までリアルタイムに出せる。事務には工場全体の稼働状況を見られるように大型モニターも設置した」と胸を張る。

今後の展望について同工場長は、「今まで福井で架装・塗装していたが、関東エリアに工場ができ、た強みを生かし、これまで以上にユーザーの要望を細かく対応できるようサポートしていきたい」と意気込む。津田社長は、「国内9拠点に常時1000台以上の在庫を保有しているが、新工場完成で東西2か所の架装体制を構築できた。生産能力を現状の2倍にして、東日本と北日本の顧客の利便性を高めていきたい」と語る。

（真鍋大樹）